創世ホール通信 No.269

催し案内＋文化ジャーナル
2017年6月1日発行■北島町立図書館・創世ホール
電話088・698・1100◎ファクシミリ088・698・1180
771-0207◎徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91◎

創世ホール名画観賞会25
この世界の片隅に

6月10日（土） 2回上映
①10時半～　②14時～

会場●3階多目的ホール

入場料●大学生・一般／前売**1000円**（当日1300円）、小・中・高 当日のみ**700円**、シニア（60歳以上）当日のみ**1000円**

作品●「**この世界の片隅に**」(2016年、日本、126分)
声の出演＝**のん**、**細谷佳正**、**稲葉菜月**ほか　原作＝**こうの史代**　音楽＝**コトリンゴ**　監督・脚本＝**片渕須直**

主催●**創世ホール名画鑑賞会実行委員会**（☎088・698・1100）

■第90回キネマ旬報ベストテン第1位、同監督賞受賞作品「この世界の片隅に」が、北島町で1日限りの上映決定！■1944(昭和19)年2月。18歳の**すず**は、突然の縁談で軍港の街・**呉**に嫁ぐことになる。新しい家族には、夫・**周作**、周作の**両親**、義姉・**径子**、姪・**晴美**■配給物資がどんどん減ってゆく中でも、**すず**は工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日の暮らしを積み重ねてゆく■1945年3月。**呉**は、空を埋め尽くすほどの艦載機による**大空襲**を受ける。**すず**が大切にしていたものが失われてゆく。爆弾の炸裂によって彼女は右手を失い、幼い姪が命を落とすのだ■それでも毎日は続く。そして1945年の夏がやってくる―■日本中の思いが結集！　百年先も伝えたい、**珠玉のアニメーション**■主人公**すず**さんを演じるのは女優・**のん**（**能年玲奈**から改名）。監督が絶賛したその声で優しく、柔らかく、**すず**さんに息を吹き込んだ■本作の音楽は**コトリンゴ**が担当。ナチュラルで柔らかい歌声と曲想が、**すず**さんの世界を優しく包み込む■皆さん、お見逃しなく。多数ご参集ください！

徳島9人のフルーティストによる音の贈り物

6月18日（日） 14時～

会場●3階多目的ホール

入場料●**1000円**（前売当日共）

演奏予定曲目●「VOICE」(武満徹)、「**ファンタジー**」(ユー)、「**フルートソナタ**」(プーランク)、「**アルペジオーネソナタ**」(シューベルト)ほか

出演●【フルート】**森亜紀**、**安宅恵美子**、**吉岡仁美**、**飯田緑**、**久保由美**、**三段美咲**、**鈴江早都子**、**板東久美**、**香川雅代**　【ピアノ】**下竹とも子**、**八木佳代**、**美馬かおり**、**平賀理絵**、**野田由美子**

主催●**フルートを吹く会**（森☎090・7626・8087）

夏休み子どもビデオ上映会
生命誌版セロ弾きのゴーシュ

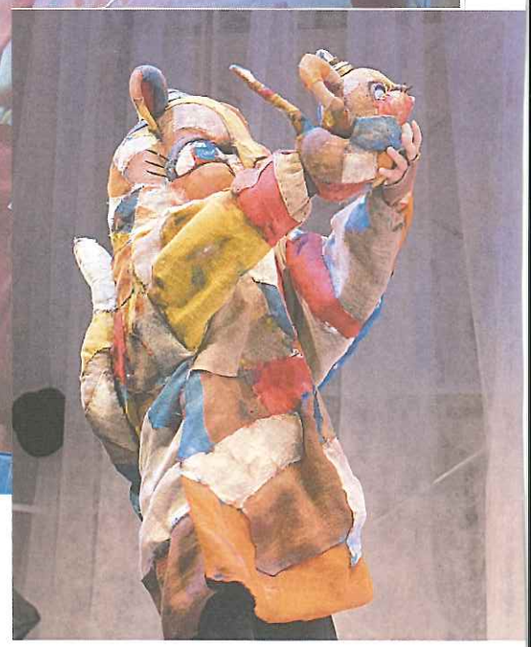
7月28日（金） 2回上映
①11時～　②14時～

会場●2階ハイビジョン・シアター　無料

作品●「**生命誌版　セロ弾きのゴーシュ**」
（2014年、ＪＴ生命誌研究館、49分）
原作＝宮沢賢治　演出＋人形遣い＝沢則之　チェロ＝谷口賢記　ピアノ＝鎌倉亮太　語り＝中村桂子・村田英克

主催●**北島町立図書館・創世ホール**

■2014年、大阪高槻市のＪＴ生命誌研究館の呼びかけで、宮沢賢治の名作が、幻想的なフィギュア・アート・シアターとして各地で上演され、大変な好評を呼びました。その舞台を完全収録したドキュメンタリー映画を上映します■物語は、活動写真館の楽団でセロを弾くゴーシュが、水車小屋で動物たちと触れ合ううちに、演奏家として人間として成長してゆく姿を、ユーモラスに描きます。小学生から大人まで楽しめる作品です■この催しは、昨年9月のドキュメンタリー映画「水と風と生きものと」上映会の連動企画です。多数、ご参集ください。



文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

「北島音頭」をめぐって●小西昌幸

赤野壽氏随想「私とギター」採録と北島音頭に関するさらなる考察

●前号「文化ジャーナル」で、「北島音頭」とその作者赤野壽さん（故人）およびその周辺について拙文をしたためました。今号では、赤野さんの未発表エッセイ「私とギター」を紹介させていただき、それを一つの手がかりとして、私なりのつたない考察（歌詞が２種類存在する事情とオリジナルの特定など）を綴ってみたいと思います●まず「私とギター」というエッセイですが、これは、赤野壽さんが平成８(1996)年９月13日、満80歳の誕生日にお書きになった文章です。ここに北島音頭の完成年月等を類推できる重要な記述や、伴奏でサポートされた石川美智子さんについての記述が登場します●テクストの形式等をメモしておくと、Ｂ５サイズの罫紙にていねいな肉筆で横書き、全６枚。段落ごとの字下げや句読点は一切ありません（古い印刷資料には字下げや句読点のないものも多くありますので、大正生まれの赤野さんのご文章に接するに当たって、このこと自体は驚くようなことではありません）。文字は非常に美しいもので、読みやすいです。採録掲載に当たり、読みやすさを考慮し、編集部の判断で、句読点を付し、段落を分け、改行と字下げを施し、漢字や送り仮名の修正を行い、適宜かっこルビで振り仮名も付けました。もちろん、赤野さんがお書きになった文章の本来の意味が損なわれないよう十分配慮しました。諸判断の責任は、すべて私が負うべきものです。（小西昌幸）

私とギター　　赤野壽

シベリア抑留中は、強制労働に明け暮れて娯楽の事などは思ってもみなかった。二年も過ぎ、ある日のこと、抑留者同志達でソ連の許可を得て編成した芸能団が慰問のため収容所へ来演、公演した時があった。寸劇、そして楽団演奏に歌もあり、ひとときではあったが、辛苦を忘れ、心を和（なご）ませてくれた。

その後、私の部屋にギターを持つ友がいた。私も音楽も歌もすきであったから、弾き方も何も知らないが、生れて初めてそのギターを借りて鳴らしてみたが、ほんの気休めで一度限り、二度とギターに触れることはなかった。

そして三年。帰国後は生活に追われてギターのことなどは忘れていた。昭和二十六年頃から、国立板西療養所に公務員として勤務するうち、少しはゆとりのある時代が来て、歌謡曲・演歌が流行し、楽団も多く編成されて劇場や職場などで、のど自慢大会が盛んに行なわれるようになり、私も劇場で生演奏で唄った。その時、楽団のギターを見てシベリアでのあの時のギターを思い出した。

その後、ギターを弾ける友人と知り合い、ギターを購入して奏法を習い、職員や看護婦さんでギター楽団を結成し、職問を利用し大いに楽しむことができた。

その頃、板野中学校の音楽寒川先生も先生同志で楽団をつくり、板療職員・入院者の慰問演奏などもあった。

私は、紙上で岡山市のリズム作詞会のあることを知り、自分の作詞がレコードになるまで努力しようと決心し、入会して、毎月作詞を二篇、投稿を続けた。指導作詞者は、テイチクレコード専属の島田馨也先生の評を受けた。

選評には、佳作外、佳作、Ｃ級、Ｂ級、Ａ級と区分されていた。私は最初の投稿からＣ級に選ばれ、そしてＢ級、Ａ級に、二年後には同人に選出された。りずむ社には、作曲部もあり、私の詞に作曲し発表するようになった。その頃は「啼くな小鳩よ」（岡晴夫）「かえり船」（田端義夫）などの歌謡曲が流行していた。昭和37年頃だった。

私の作詞「チョイナ笠」に作曲部の南條由起緒氏（放送局勤務）が作曲し、歌手は本名乗松ひろみさん（のちにコロムビアレコードの歌手扇ひろ子）がラジオ大阪から毎週木曜日午後10時頃放送していた。私の作詞が歌になり電波に乗って聞くことができて大いに感激したことだった。

又、私の作詞（「雪のふるさと」）がＮＨＫ「あなたのメロディー」に入選して放送されたこともあった。招待されたが、東京まで行くことができなかった。

また、歌手・扇ひろ子さんから、「作詞ありがとう」と云う便りが届いたこともあった。

その後、りずむ社を退会して、作曲の南條さんが始めた作詞作曲の会、歌謡旋風横浜に入会し作詞を続けている内、南條さんが私の詞に作曲編曲した「やくざしぐれ」、次に「空港の夜」をレコード吹込みをして送ってくれた。

投稿を続けるうち、今度はオリオンレコード会社でレコーディングという知らせに、胸躍る思いでした。待望のレコーディング、私にとって最高の歓びです。私の作詞に、南條由起緒さんの作曲・編曲、伴奏はオリオンレコード・オーケストラで、最初は「指切峠」。台詞入りで、歌手は新人・並木蔦子さん。次は「イナイナ東京」、民謡入りで歌手は原ひろしさん。次は「旅路の雨」で歌手は斉藤久子さんで唄われて、〔これらは〕レコードになった。

レコーディングは、南條さんの厚意があればこそ、私の念願が達成出来ました。レコード化を夢に抱き、作詞に執念を燃やしたと言っても過言ではない。

板療病院勤務も定年を迎え、退職前に北島町に家を構えて娘の嫁入り、そして息子の嫁取り等で忙しく、好きな作詞もストップしていたが、二度目の家造り、グリーンタウンに移転居住してからは、孫も大きくなり落ち着けた。

その頃からカラオケが大流行、盛んになり、グリーンタウンカラオケ会も出来て、大いにのどを競いながらも、も一度作詞をと思い、東京アカデミー作詞部指導者で作詞作曲家の石坂まさを先生に入会。投稿中に、会員で演歌作詞トップ級の名古屋市の小野都久さんとも知り合い、文通にて意見を交換する内に、私の作詞「盛り場心」に小野さんの補作もあって、アカデミー最優秀作品に入選した時もあり、ほかにも優秀作品、準優、佳作と多数紙上発表することが出来た。

小野都久さんヒット曲「晩秋の宿」（作曲伊藤雪彦、補作詞石坂まさを）、歌は三笠優子でレコーディング発売された。私は、アカデミーを二年程で退会していたが、小野さんの紹介で名古屋市のそよ風作詞作曲会に一年程入会していたが、年老いて限界を感じ退会した。

でも、積み重ねた作詞を捨てるのではなくて、70歳は越えたけれども、これから作曲法を勉強し本譜を覚え、自分の作詞をギターで作曲してみようと苦心覚悟で満足できる曲に努力した結果、まず「北島音頭」が出来た。長い詞ですが、楽しく明るく踊れる曲に完成。振付して、グリーンタウン夏祭りの踊りにも使用された。そのほか、「佐那河内音頭」、「歩危小唄」、「藍住音頭」、「阿波小唄」、「隣組音頭」、「阿波の踊り子」、「眉山夜曲」、「さだめ橋」、「あゝ城跡」、「うなぎや小唄」、「グリーンタウンカラオケ会歌　歌の道」、「カラオケうどんサンキュー音頭」、「シベリア抑留歌」等を作詞作曲。作品は仁木エレクトーン教師・石川美智子さんに依頼して、全曲、唄・メロディーをカセットに録音することが出来た。

現在、私は80才。戦後50年も過ぎ、シベリアで知ったギターが年老いてからもよみがえり、私の歌となり生かされたのです。　以上

●古びたギターに私の人生の思い出が秘められている。現在も部屋の片隅に掛けてあるギターが、私に何かを語りかけてくるように見える、私とギターです。

平成８年９月13日　満80才　　赤野 壽

■以下は、「北島音頭」に関する追加のメモである。

「北島音頭」をめぐって★追加メモ／小西昌幸◎赤野さんのエッセイ「私とギター」は、シベリア抑留体験を契機として音楽の素晴らしさを強く認識し、その後の人生で熱心に趣味として歌謡曲の作詞を行ない、70歳（1986年９月13日）を契機に作曲にも挑戦したこと、その最初の作品が「北島音頭」であること、ほかにも多くの歌を作詞作曲した旨が書かれている。とても几帳面な方なので、満70歳を迎えた1986年９月以降から翌87年頃に作られた作品という判断をしてよいのではないか？　少なくとも80年代後半に作られたという言い方で間違いはないだろう。

◎また、同エッセイには、作詞作曲した作品は「石川美智子さんに依頼して全曲、歌・メロディーをカセットに録音することができた」とはっきり記されている。石川さんは、当時、赤野さんのご近所（北島グリーンタウン）にお住まいだったようだ。

◎2011年11月24日、キューテレビの番組「きゅートモ」で「北島音頭」に関するドキュメンタリーが放映された。それは、町文化協会有志が埋もれていた「北島音頭」発掘に取り組み、同年11月20日開催の「平成23年度北島町文化協会芸能大会」のステージで、同曲の歌と踊りを披露する過程を追う内容だった。赤野壽さんは既に他界されていたので、ご遺族（ご長男＝赤野昇・史子ご夫妻、ご長女＝小藤由美子さん）が客席から感慨深く本番の舞台を見守るというシーンもあった。歌は夷谷清三郎氏（当時北島町文化協会会長、故人）、振り付けは菊ノ上菊丸さん（町文化協会役員、日舞の菊ノ上流のお師匠さんで本名は西紀美代さん）がそれぞれ担当、夷谷会長の歌に合わせて菊丸さんを中心に有志13名が踊る模様が収録されている。

◎番組は「赤野壽さん。歌に生涯を賭け、北島町に『北島音頭』を作った人……」という同局柴田好輝氏のナレーションで印象的に締めくくられる。

◎この時の歌の伴奏音源の演奏家がどなたなのかずっと謎だったが、「私とギター」の文章から石川美智子さんの伴奏と判断してよいのではないか。

◎「北島音頭」をめぐる謎はもう一つある。赤野さん直筆の歌詞と、文化協会芸能大会で披露された歌詞が微妙に異なるのである。私の手元には赤野さん手書きの歌詞と、芸能大会版とおぼしきワープロ打ちの歌詞があり、何か所か異なる部分があるのだ。例えばオリジナルでは合いの手が「ヨホホイノホイ」なのに、芸能大会版では「ヨサホイノホイ」になっている。また２番では「前は眉山の桜が招く」が「あれは眉山の～」となっている。次の詞が「うしろ讃岐の～」となっていることからも「前は」が正しい。また４番の、町の地名を盛り込んだ部分もオリジナルが「鯛浜（たいのはま）」なのに、芸能大会版は「旅の畑（たびのはた）」になっていて脈絡がつかない。これらから推察すると、オリジナルの歌詞を入手できなかったために、カセット録音から聞き取りをして採録を行ない、結果的に間違いが生じたというのが真相であろう。

◎私たちは、オリジナル版の作者赤野壽さん、それを四半世紀後に発掘し舞台で披露した町文化協会有志の方々をはじめ全ての関係者に敬意を表しつつ、東根泰章さん作詞の21世紀版＋オリジナル版を収録した決定版ＣＤ制作に向けて鋭意準備中だ。今しばらくお待ち下さい。（2017年06月10日脱稿）